

<自主的努力項目記入書式>

提携先	藤原食品株式会社	記入日	2009/10/10
登録消費材名	天津甘栗		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

中国のWTO加盟により2003年より、配貨商品の扱いが撤廃になって以後、弊社は遷西県の一産地に絞り込んで供給を行うようにしてきました。当初は産地に影響力を与えるくらいの輸入量を確保できていたものの、特にここ2～3年の落ち込みは著しく、買付当初の30%以下にまで輸入量が減少してしまいました。むき栗用原料に当てるなどしても50%程度まで達しない状況の中で、産地とどのように共生を図っていくかに苦勞しました。幸いにもこと栽培に関しては農家の方々は好意的にこちらからの要求を受け入れてくれました。昨年からは、品種特性による供給時期における品質格差を小さくする目的で新産地を品質規格書に載せておりますが、生活クラブの考え方を理解していただくまでには長い年月が必要だということを痛感いたしております。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

できるだけ集荷地点を集約することに努めました。集荷地点を一箇所にする事で会社が直接栗を管理することができ、トレースが切れることなく栽培履歴を追えるようになったことは成果だと思います。今後は時間はかかるかもしれませんが、農家単位での樹の管理まで行えるような体制が作れればと思っております。製造工場内の環境整備はなかなか進まない中、トレース帳票の整備と確実な記載による従業員の意識レベルの向上に努めてまいりましたが道半ばといったところではあります。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

今年の産地点検での指摘事項を元に、旧産地では農家単位での持ち込み原料麻袋へのタグ付けによる原料管理を進めます。新産地では地域認定GAPにとどまっている管理レベルを引き上げるべく、農家単位での時期毎の作業内容を農家自身が把握できる仕組み作りの一年目としていきます。製造工場内の帳票類や意識については現状あるシステムの中での遂行レベルを引き上げ、次のステップに進む一歩が踏み出せるよう全力を尽くします。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	藤原食品株式会社	記入日	2009/10/15
登録消費材名	天津むき甘栗 から割れ天津甘栗 (包み栗)		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

天津甘栗の使用する栗とトレースを同じくする天津栗を加工できる仕組み作りに取り組みました。2006年から現状スペックでの製造が行えるようになりましたが、その間、生活クラブ基準のハードルが我々の変化のスピードを遙かに上回る早さで進んでおり、本年の工場点検においては、様々な問題点の指摘を受けました。中国国内での生産はこの指摘の早急な改善という面では国内製造との差が出てきてしまい、いかにこの部分のスピードを上げられるかということが課題であり、限界性でもあります。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

2007年産天津栗の加工まで天津むき甘栗の焼成には（遺伝子組み換えの可能性がない）蔗糖原料の砂糖を使用していました。この砂糖の在庫が切れ、中国国内で新規に砂糖を購入しようとしたときに証明書発行の拒否がありました。このため、非遺伝子組み換えの確実な履行のため、弊社が天津甘栗用に購入している水飴KD(指定原料)をそのまま輸出することとし、それで焼成した一次原料を元に製品加工を行うようにいたしました。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

水飴の課題は前シーズンで解決いたしましたが、工場点検により指摘された製造管理体制については本年度より一新して取り組まなくてはならないことが多くあります。工場点検の内容は弊社本社工場にもそのまま当てはまることが多く、弊社で実践しつつ、会社に落とし込んでいくことが可能な帳票作りと、従業員にその意味を十分に納得してもらい自分の責任で動くことのできる工場に向かつての第一歩に重点を置いて進めていきたいと思えます。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	藤原食品株式会社	記入日	2009/10/15
登録消費材名	中国はるさめ		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

2007年度より進めてまいりました農家固定による契約緑豆栽培もようやく軌道に乗り、契約数量と結集とのバランスがとれるようになってきました。本年度は大きなぶれもなく(極端な緑豆の在庫過多)もなく供給ができております。生産条件は、組合員の結集力によっています。極端な結集力の低下がなければ問題なく供給ができます。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

原料面の課題は脱却しつつあります。しかしながら、工場点検を行ってから2年がたち、そのうちに生活クラブ各生産者の生産レベルがみるみる向上していることに対し、我々のレベルが追いつかなくなってきています。もう一度中身を見直し、工場管理、製品管理を確認しなければなりません。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

従業員特に製造に直接関わりを持っている製造社員の方にはなかなか生活クラブの活動のみならず、どのような人が食べることによって関わっているかということを考えていただくことはできないと思います。生活クラブの機関誌に載せていただいた記事や反響、はもとより、事故品が発生した時に全員に見てもらい問題をみんなで考えていただくなど個人個人の方がより生活クラブ消費材に愛着を持って製造に当たってもらえるよう考えた取り組みを行うことによって信頼関係をより強固なものにし、更により良い製品作りができるよう取り組んでまいります。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	藤原食品株式会社	記入日	2010/4/2
登録消費材名	ザーサイ		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

昨年5月、四川省に大地震があった際、公司も被害を受け、塩地がひび割れし、つけ込み甕の30%が割れる被害を受けました。これにより生産量が大きく落ち込みましたが、生活クラブ分のザーサイは事前購入計画に基づいた数量設定がされていたため無事納品できました。CIQによる検査が製品製造から納品までのリードタイムを大変長くしていることから、製造年月日内規での供給についてもコントロールが大変難しい状況となっています。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

製造年月日内規をクリアするため、一回あたりの製造個数を減らし、チャーターコンテナから混載コンテナに手配を変えることにより在庫の減少につなげました。工場点検を行ったのは2008年2月ですが、その後、製造管理の手法など生産者のレベルが大幅に上がる中、我々の管理体制はそのままの状態が続いています。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

数量ベースのばらつきが大きく、在庫調整は十分に働いていませんが、ようやくCIQ検査の時間的ばらつきがなくなってきましたので今後は供給計画を十分に吟味し、管理体制の構築につなげます。今後は結集量拡大のため、組合員に使用法を知っていただき、幅広く使ってもらえることを目標に何ができるのかを考え実践してまいりたいと思います。

<自主的努力項目記入書式>

提携先	藤原食品株式会社	記入日	2010/4/2
登録消費材名	乾燥きくらげ		

I. これまでに努力してきたことや、生産条件の限界性など

契約圃場で栽培、管理され、農薬使用が全くない状況で、乾燥状態のきくらげを検査すると生活クラブ基準に満たないごく微量の残留農薬が検出されることについて、原因由来を特定することに大変苦慮いたしました。

II. 前年度に努力したことへの評価(成果や課題)

当初はドリフト等の可能性を考え、管理圃場10箇所の全製品について検査を行い、どの圃場でどのような農薬がどの程度検出されるのかの調査から行いました。これによりほぼ全管理圃場から、ほぼ一律にごく微量の成分検出があることが判明し、由来は栽培現地ではないのではないかとの結論に達しました。続いて、きくらげの菌を植え付ける培地を疑い、培地検査を実施、ほぼ同一の成分検出があったため、これが原因であると考えられるとの仮説の元に、培地に使用する小麦を一般品から緑色食品のものに切り替え、2009年度産より使用いたしました。その結果、培地残留、製品残留ともない状態で集荷できるに至りました。

III. 上記の成果や課題につながる今年度の努力目標、または今年度の新たな努力目標

前年の結果を踏まえ、培地の残留農薬検査を早急に行っております。また、周辺環境の調査を実施し、水田・畑から遠い標高の高い地区に管理圃場を限定し、現在に至っております。新しい消費材ですので未だ不十分な点が多く、トレース帳票等の整備などが遅れておりますが、時間はかかっても着実に進めて行きたいと考えております。